

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300674
法人名	特定非営利活動法人 なごみの森福祉会
事業所名	グループホーム はあと
訪問調査日	平成21年6月23日
評価確定日	平成21年8月5日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300674
法人名	特定非営利活動法人 なごみの森福祉会
事業所名	グループホーム はあと
所在地	鹿児島県鹿屋市横山町1974番地3 (電話) 0994-31-9101

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年6月23日	評価確定日	平成21年8月5日

【情報提供票より】(21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 10 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費1日 300 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	4	名	要介護4	2	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 85, 1 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮園クリニック・おばま病院・小林クリニック・ひがし歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市郊外ののどかな住宅地に位置しているこのホームは、付近の住宅と違和感なく温かい雰囲気の外観のグループホームである。玄関を入ると木のぬくもりがあふれ、まさに大きな「家」といった感じである。また、ホームの機能を活かし、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイの利用ができる。利用者は表情も明るく元気でホーム内に活気を感じる。職員の勤務体制も休日や職員配置に余裕をもっており、利用者一人ひとりに寄り添うことで信頼関係が築かれ家族のようななじみの関係ができ、アットホームな雰囲気がある。福祉や介護に精通した管理者を中心に職員はチームワーク良く、自己研鑽意欲を高くもち、常にどんな場面でも利用者が一緒にいるという利用者主体のペースで利用者とともに毎日を楽しく過ごすことをモットーにしている。隣接するデイサービスもあり、今後更に地域と密着した生活の提供が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回の開催でホームの行事などに絡ませて多くの家族の出席もあり、ときには認知症の勉強会を行うなど意義のある取り組みができています。職員を育てる取り組みは月1回のホーム内での勉強会に職員主体の発表の場を設けたり、外部研修も全職員交代で参加させるなど職員育成に支援している。災害対策の備蓄、備品については準備中である。栄養に関する定期的なアドバイスは食改善指導員のアドバイスをもらって取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者がまとめたものを職員全員にまわし意見を求めた。また、外部評価の結果で改善すべき点は職員会議で取り上げ職員全員で話し合い、具体的な改善に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長、民生委員、高齢者クラブ会長、家族代表、市職員などの参加を得て2か月に1回開催している。楽しい取り組みの会議になるようにとホームの行事などに絡ませて開催しているので、家族の参加も多く、地域の代表の方々とも楽しく意見交換ができています。利用者の家族に消防分団の方がおり、災害時の留意点など参考になる意見アドバイスをもらうなどホームの運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に相談・苦情受付窓口を明記し、面会時などにも意見を聞くように努めている。匿名のアンケートも実施している。家族から病院受診の件で要望があり、話し合った結果、お互いに無理がないように解決策を提案し、納得してもらうなど家族からの意見などを運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>中学生の職場体験の受け入れや保育園、幼稚園児の訪問、校区の小学校にホームの利用者が作った雑巾を寄付したり、授業参観を見学させてもらうなど地域の子供たちとの交流が盛んである。今後はホームでの焼肉パーティーなどにも地域の子供たちを招待し、利用者と一緒に交流ができるように検討中である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に3つの柱の理念を作り上げている。代表者の地元でもあり、「この地域であなたが安心して暮らせるように支援」という文言の地域密着型を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員採用時に配布し、職員は理念に沿ったケアを日々心がけて取り組んでいる。月1回の職員会議で理念を振り返る機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の職場体験の受け入れや保育園、幼稚園児の訪問、小学校にホームの利用者が作った雑巾を寄付したり、授業参観を見学させてもらうなど地域の子供たちとの交流が盛んである。今後はホームでの焼肉パーティなどにも地域の子供たちを招き、利用者と楽しく交流ができるように検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者がまとめたものを職員全員にまわし意見を求めた。また、外部評価の結果で改善すべき点で納得したものに関しては職員会議で取り上げ職員全員で話し合い、具体的な改善に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、高齢者クラブ会長、家族代表、市職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。ホームの行事などに絡ませて開催しているので、家族の参加も多く、地域の代表の方々とも楽しく意見交換ができています。利用者の家族に消防分団の方がおり、災害時の留意点など参考になる意見アドバイスをもらうなどホームの運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、市役所に足を運んだり、電子メールのやりとりで相談など行い交流を図っている。また、市役所にあるNPO担当(市民活動の推進室)とも行き来する機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況報告は面会時や毎月発行のホーム便りに手紙を添えて定期的に報告している。また、異常があれば都度電話などで報告している。職員異動は玄関に職員の紹介を掲示しており、ホーム便りでも報告している。金銭管理は毎月の請求書送付とともに収支の報告も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情受付窓口を明記し、面会時などにも意見を聞くように努めている。匿名になるようにアンケートも実施している。家族から病院受診の件で要望があり、話し合った結果、お互いに無理がないように解決策を提案し、納得してもらうなど運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設のデイサービスもあるが管理者はなじみの関係の重要性を理解しており、職員の異動は行わない方針である。職員が無理なく勤務できるように職員の配置に余裕があり、休日も多めに設定するなど離職を最小限にとどめる配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の必要性を理解し、外部研修への参加や施設内での学習会への積極的な参加を促している。外部研修の受講者は職員会議で研修報告を行い、全職員に伝達している。また、ホーム内の学習会では新しい取り組みとして、職員主体で職員が交代で10分程度の介護ワンポイント教室を行っている。毎日の申し送しも管理者は入らず職員主体で行うようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が大隅地区グループホーム協議会の理事であり、職員同士の交流となるような研修を企画し、毎回交代で職員を参加させ、サービスの質の向上を図っている。他グループホームより1日研修の受け入れもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム入居前に本人および家族には見学にきてもらいホームの雰囲気を覚えてもらっている。まれに緊急性のある場合突然の利用開始となることもあるが、緊急の場合でも家族と話し合い、今後はホームの雰囲気になじんでからの入居となるようにデイサービスを活かしていきたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず利用者とともに行動するというを常に念頭に置き、一緒に生活を楽しめるように心がけている。また、料理について教わったりするなど支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴中が利用者は一番自分のことや思いを話すので職員は入浴時や居室で1対1になったときに思いや意向を聞きだすように努めている。更に思いや意向の把握ができるように、本年度の取り組みとして「わたしのことプロフィール」の作成中である。(出生時の事、社会人時代の趣味・娯楽・仕事、現在の趣味・娯楽・嗜好など)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に聞いた家族の意見や意向、職員の意見などを基に話し合い、それぞれの意見を反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごとの評価と期間に応じて見直しを行っている。入退院後や状態の変化などあった場合は都度見直しをしている。独自に作成した日勤、夜勤用の業務日誌と個人の経過記録を評価に活かし、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や定期受診など事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。また、ホームの機能を活かし、短期入所や認知症対応型通所介護も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望をもとにかかりつけ医を決めている。定期的に(1ヵ月に1回)受診し適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族に重度化した場合のホームの方針を説明し、納得して同意書もらっている。職員も全員方針は共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に接遇についての勉強と職員会議で勉強会を行うなどし、利用者の誇りやプライバシーを損ねないようなコミュニケーション作りを教育中である。また、職員用トイレにも職員が目につく場所に接遇に関する張り紙がしてある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、体調や希望に合わせた暮らしを支援している。職員主体ではなく、いつもどんな場面でも利用者がいるというホームになるように努めている。起床も本人のペースを大切に、起床時間は一人ひとり違う。早い人で5時30分に朝食をとる利用者もあり、遅い人で8時くらいの利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて調理の手伝い、食事の準備、後片付けなどを職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はおおよそ2～3日に1回のペースであるが、できるだけ利用者一人ひとりの希望が叶えられるように支援している。また、入浴の嫌いな利用者にも声かけを工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の小学校に寄付する雑巾を作ったりと個々の力を活かした役割や、個人の買い物など利用者の楽しみごとの支援をしている。また、外食や遠足など気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に同行したり、天気がよければ少し遠出をしてドライブに出かけたりしている。また、春と秋の気候がよいときには散歩を兼ねて畑に行き野菜を収穫して帰ってくるなど、できるだけホームに閉じこもらない支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、外出傾向のある利用者を把握し、職員が常に目が届くように人員配置と業務内容にしている。夜勤帯はチェック表を作成し定期的に様子を確認するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練に地域の消防分団の方々(5名ほど)も参加している。また、自動緊急通報に町内会長も入っており、地域の人々の協力が得られるように働きかけている。救命救急訓練も地域の公民館で行われ職員の大抵が受講している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分摂取はチェックして確保できるようにし、毎月体重測定を行い、職員全員が利用者の状況を共有している。また、個々の状態に応じて食事形態を工夫している。栄養バランスは食改善指導員にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、大きな木のテーブルが3カ所設置され、ソファと畳のコーナーもあり、利用者が気にいった場所で過ごしやすい空間を提供している。また、靴箱に竹炭を置いたりし、消臭にも配慮している。冬場の乾燥対策として、加湿器を置いたり、ストーブの上にやかんを置くなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んで居心地のいい居室作りができています。本人、家族と相談しながら個々に合った居室作りができています。		